

[DSC09098](#)[DSC09151](#)

名古屋の知的障害者たち40名のスタディ・ツアーが、7月22(日)、浜松市北区「かな野外センター」で行われた。今年で3年目。NPO法人楽舎(らくしゃ)が主催した。

40名は、名古屋から貸切バスで2時間かけて、到着。荷物を担いで森を歩く。入所式のあと、しばし散策して、昼食のお弁当。

その後、体育館をつかってマンダラアートの体験。「○△□」をテーマにクレヨンで描いた。描き終わったら、その作品を持って、一人ひとり、みんなの前で「こんな絵を描きました。こんなこと思いました。」と思いを語ってもらった。

マンダラとは、古代のインドの言葉で「輪円具足」(欠けているものはない。すべてそのまま満ちている。)
「功德聚」(幸せ・よろこびの集まり)という意味。

どんなものを描いても、それはすべて自分の心の現れであり、そのままオクケーであり満ちているという、そんな意味あいでお名付けられた。

次に、野外炊飯の活動。薪割り、米とぎ、野菜を切る。かまどで火熾して煮炊きのカレー作り。そして楽しい食事。

しかし、食事をしておしまいではない。皿洗い、鍋の焦げ落とし、きちんと整頓して、収納。とくに、薪で焚くのでどうしても鍋の底に煤が着く。それを落とすのが一仕事。

野外センターのスタッフが、きっちりと指導してくれた。
「よくここまで、焦げを落としました。すごいです。でも、まだここに、ほら、煤が付いていますね。残念98点です。でも、こうしてタオルで落とせば、ぴっかぴか。こうやってきれいにしてあげば、次に使う人たちが気持ちいいですね。でも、みなさん、合格ですよ。すばらしい。」

ものの言い方がハートフルで、感心した。参加者は一人として遊んでいる人がいなかった。とっても丁寧、熱心、勤勉で感心した。いろいろ学びのある一日であった。

この猛暑の中で、心配された体調管理であったが、事故もなく、楽しいスタディ・ツアーであった。

浜松市北部地区特派員 池谷 啓

[DSC09174](#)[DSC09198](#)